

GINZA SIX *magazine*

A Magazine *for* Ginza / Tokyo Lovers



The Joy of Fashion and Art

もう一度、よろこびを

G S I X

Spring 2021 ISSUE

6

The Joy of Fashion and Art

ご存じ永遠かつ最強のロックアイコンとして君臨する
ローリンズ・ストーンズがファースト・アルバムを発売した1964年、
当時ハリウッドのバインストリートにあったブティックへと
ショッピングに繰り出した際に記録されたこちらの写真。

まだあどけないミック・ジャガーが当時のメンバーに茶化されながら、
持ち前のしなやかな容姿でスーツを試着して袖丈のお直しを受けているのだが、
チャットの内容が聞こえてきそうなほど、やたら、楽しげなムードである。
その場の「JOY(よろこび)」が、時を超えて、伝わってくるようだ。

他方で、そんな心が素直に弾む時間を、よろこぶ力を、
最近の私たちは何処かに少々置き忘れてきてしまっていないだろうか。

大きな転換期に生きるからこそその新たな自由を纏い、
もう一度、高揚する気分のままに、ファッションに出会ってみたい。
そこにあるアートと、人々と、思いきり通い合いたい。

いつも以上に待ち遠しい春の訪れに寄せて。



Photo: Mirrorpix/Atlo

The New Joys

新風を纏うよろこび



クリエイティビティー溢れるフレッシュなモードとの出会いは、心に“よろこび”というビタミンを与えてくれる。
GINZA SIXに今春オープンする4ブランドの新作を、アートなコラージュビジュアルで表現。
緑のあるセレブリティが語る魅力とともに紹介する。



Celebrity Voice 富永 愛

今では、私のワードローブに欠かせない存在となったザ・ロウ。シーズン毎に物語があり、その一つ一つのピースには関わった人々の想いが透けて見えるかのように、丁寧に作られていることがわかります。色褪せることのない洗練されたパターンと素材、デザインの素晴らしさに、着るたびに驚かされます。そんな服を纏えることに幸せを感じながら、ザ・ロウにこれからの私の人生を重ね合わせ、思い出を積み重ねていきたいです。また、これからザ・ロウがどんなファッションを生み出していくのかを楽しみにしています。

Profile 日本を代表するトップモデルとして世界的に活躍。メディアのパーソナリティや女優のほか、チャリティ、社会貢献、女性のエンパワーメントに関する活動も行う。著書に『富永愛 美の法則』（ダイヤモンド社）。

THE ROW

コンテンポラリーで繊細な美意識

アシュリー・オルセンとメアリー＝ケイト・オルセンが2006年に設立したザ・ロウ。ハイクオリティな素材と正統的なテーラリングが生む、こだわりのミニマムスタイルには、アーティスティックな感性が薫る。スキューバ素材のロングドレスは、華奢なストラップとのコントラストが印象的。柔らかなレザーバッグとリラックス感のあるサンダルとの、抜け感のバランスを楽しみたい。ブラックのストラップドレス ¥108,900・ネイビーのストラップ付きミニバッグ〈高さ16.5×幅26×マチ6.35cm〉 ¥207,900・オリーブ色のフラットサンダル ¥97,900/ザ・ロウ 【3F】 ※ 3/3 オープン予定



Celebrity Voice 今市隆二

三代目 J SOUL BROTHERS
from EXILE TRIBE

僕にとってジュエリーは日々の生活を彩ってくれる必要な存在。そんななか、LAの本社を訪れたのがホーセンブースとの最初の出会いです。ウッドで統一されたスタイリッシュな空間は居心地が良く、ラインナップも充実していて、とても長く滞在したことを覚えています。どんなスタイルにもポイントとして使えるゴールドのウォレットチェーンや、僕がプロデュースするブランド、RILYとのコラボレーションネックレスを他のジュエリーと3連で着けるなどして愛用しています。

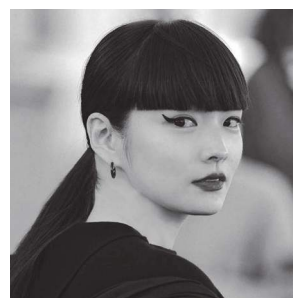
Profile 2010年に三代目 J SOUL BROTHERS のボーカルとしてデビュー。RYUJI IMAICHIのソロプロジェクトでは多彩な活動も行う。EXILE TRIBE Special Package「RISING SUN TO THE WORLD」が好評発売中。

HOORSENBUHS

ジェンダーレスで楽しめる唯一無二の輝き

カリフォルニア発のファインジュエリーブランド、ホーセンブース。2005年にクリエイティブディレクターのロバート・G・キースが創設。こだわりのハンドメイドジュエリーは、世界のセレブリティが支持する。シグネチャーのトライリンクのイエローゴールドジュエリーはモダンな温かみが魅力。右上から時計回りに/フープピアス ¥467,500・トライリンクのリング ¥486,200・フルバウテダイヤモンドのリング ¥1,016,400・トライリンクのリング ¥858,000・オニキスのリング ¥4,180,000・チェーンブレスレット ¥1,848,000・バングル ¥2,112,000/ホーセンブース 【3F】 ※ 3/5 オープン予定

コラージュ映像作家。2006年に渡英し、ロンドンの蚤の市での古い雑誌集めをきっかけにコラージュに目覚める。音楽活動をしている友人に誘われ、音のコラージュでもある音楽制作もスタート。現在はシュルレアリスムな作風で、雑誌のアートワークなどを数多く手がける。
naopetitoto.com



Celebrity Voice 秋元 梢

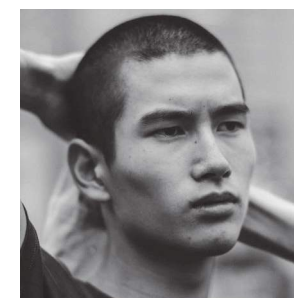
一見、ハードでダークに見えるけれど、実はエレガントな一面もあり、相反する物が共存しているところに心を奪われました。不変であるけど、常に進化していて、ショーを観たり、実際に洋服に触れるたびに胸が高まります。私が大切にしている、自分は自分、人にどう思われようと関係ない。それをリック・オウエンスは、ブランドとしても人としても体現していて、リスペクトしています。世界観溢れるリック・オウエンスの世界へぜひ足を運んで欲しいです。

Profile モデル。資生堂「SHISEIDO GINZA TOKYO」のグローバルアンバサダーとして活動するなど、日本だけでなく海外のファッションシーンでも活躍し、アジアを代表するモデルとして注目を浴びている。

Rick Owens

ダークななかに映し出されるエレガンス

エッジの効いた唯一無二の世界観に、熱狂的なファンを持つリック・オウエンス。彼自身が毎夏を過ごす土地であり、現況を想起させる疫病流行の時代背景を持つ小説「ベニスに死す」の舞台、イタリア・ベニスのリド島から今季はデジタルショーを開催。コレクションのキーアイテムであるインパクトを放つクリアヒールのサイハイブーツと、構築的で洗練されたミルクカラーのドレスに脅威への反逆精神を宿して。コットンポプリンのチュニックドレス¥110,000・クリアナブロックヒールのサイハイブーツ（ヒール12.5cm）¥556,600 /リック・オウエンス 【3F】 ※3/27オープン予定



Celebrity Voice Kohei

オフホワイトに最初に興味を持ったのは、インスタグラムで見たアイコン的なイエローのロゴベルト。ヴァーゼルは建築学を勉強していたり、カニエ・ウェストのもとで服作りにも関わっており、今までにないアプローチで、そのストーリーをハイファッションにのし上げた天才です。キャスティングされていたショーのリハーサル中に、僕のバッグに興味を持ったヴァーゼルが写真に撮っているのを見て、日常からアンテナを張るからこそ、トレンドを瞬時に察知できるのだなと感じました。

Profile 19歳でモデルデビュー。海外に進出すると瞬く間にブレイクし、オフホワイトを始めとする、ハイブランドのランウエモデルに抜擢。数多くのキャンペーン広告にも起用されている。BE NATURAL所属。

Off-White c/o Virgil Abloh™

ストリートとモードのFUNな融合

クリエイティブ・ディレクターのヴァーゼル・アブローが2013年に設立。ブランド名はブラックとホワイトの間のグレーエリアを定義しカルチャーやビジョンをも表現。「What Stars Are You Under? (あなたはどの星の下にいる?)」と題した今季は、新しい社会に向けたポジティブなメッセージが込められている。グラフィティを総柄にしたシャツや、カットアウトされたネクタイなどのアイテムが揃う。グラフィティシャツ ¥85,800・カットアウトタイ ¥25,300・インタストリアルストラップ付きトートバッグ (高さ50×幅35cm) ¥110,000 / オフホワイト c/o ヴァーゼル アブロー™ 【3F】 ※4月中旬オープン予定

Joyful Style

スタイリングにもひとさじの楽しさ

装うことの意味を改めて見つめ直すいま、そこにはもっと自由と遊び心がある。素材、ディテール、色柄使い、意外性、品質…新しい時代に本当に楽しいお洒落とは？ブランドのキーパーソンが提案する“Joyful”なスタイルで、ポジティブな明日を。



ebure

酒井典子さん
ファッションディレクター



自分が着たいと思うものを選ぶことが、新しい自分らしさとの出会いであり、それを見つけることがおしゃれの楽しさの醍醐味でもあると思います。身に纏って気分が高揚するようなワンピースは、上質なフランス製のリバーレースを使用したもの。たっぷり生地を使った体のラインが美しく見えるシルエットが特徴で、あえてジャケットを肩掛けして着こなせば、自然体で着映える贅沢なカジュアル感のある装いに。

ワンピース ¥176,000・ジャケット ¥69,300・シューズ（ヒール1cm） ¥59,400（ベリーコ） / エブール 【4F】



styling/

白幡 啓さん
ディレクター



毎日のおしゃれの中に心が弾むエッセンスを取り入れるだけで、明るい希望の光が当たる気がします。例えば、エスニックテイストを落とし込んだ大胆なプリントのシフォンプリントスカート。ほんのり光沢感のあるギャザーベルトのトレンチコートにプラスするだけで、軽快で華やかに。インに合わせたニットは実はバックがボタンで開くデザイン。無難にならない、遊び心のあるスタイルを目指してみませんか？

トレンチコート ¥39,600・半袖ニット ¥15,400・スカート ¥29,700（ケイ シラハタ）・ネックレス ¥110,000（ラツェル アンド ウォルフ）・バッグ（高さ21×幅20×マチ12.5cm） ¥40,700（ヴァジック）・サンダル（ヒール10cm） ¥20,900（センソ） / スタイリング / 【4F】



Theory

比護つばささん
PR



ストレスフルな時代には、着心地が良く、気分を上げてくれるアイテムが必要だと思います。リネストretchのシャツとショートパンツのセットアップは、オン/オフといったシートの垣根がなくなりつつある新しい日常にフィットした、大人のリラックススタイルに最適。また、エコ・クラッチ・ウォッシュという環境に配慮した素材であることも、これからのファッションを楽しむ上では欠かせないポイントです。

シャツジャケット ¥36,000・ショートパンツ ¥24,000・ニット ¥26,000・バッグ（高さ23.3×幅31×マチ10cm） ¥36,000・サンダル ¥32,000 / セオリー 【4F】 ※すべて3月中旬入荷予定



PARIGOT

高垣佳代子さん
レディース統括バイヤー



新しい服との出会いは新しい自分の発見や背中を押してくれるきっかけに。なじんだ服は思い出と共に自分だけの1着に。だからこそ、服の持つパワーは無限大だと思います。限定コラボのワンピースとジャケットは、どちらも素材やディテールにこだわりがいっぱい詰まっていて、着るとうれしくなるデザイン。ジャケットを羽織っても脱いでもサマになるスタイルリングを、ニュアンスカラーの小物で上品に仕上げました。

ワンピース ¥33,000（エズミ×パリゴ）・ジャケット ¥48,400（ミユラー オフ ヨシオクボ×パリゴ）・イヤークフ ¥69,300（シャルロット シェネ）・バッグ（高さ16×幅20×マチ7cm） ¥28,600（トフ&ロードストン）・サンダル（ヒール5cm） ¥31,900（ピビシック×パリゴ） / パリゴ 【4F】



SIXIÈME GINZA

笠原安代さん
MD ディレクター



ファッションがニューノーマルな生活をポジティブに楽しむための一助となればと、EASY&COMFORTなスタイリングを選びました。親しみのあるアイテムですが、ポイントは新しいフォルムや素材感が生み出す軽やかさ。そこにハンズフリーになるバッグやもう一歩歩きたくなるシューズ、必需品となったマスクもアクセサリ感覚で。グッドデザインであると同時に機能的であることがこれからのスタンダードに。

コート ¥93,500・シャツ ¥25,300・パンツ ¥34,100（3点ともロエフ）・マスク ¥14,300（ローラ ハット）・マスクチェーン ¥26,400（マギーシュ）・バッグ（高さ17×幅23×マチ9cm） ¥48,000（オソイ）・シューズ（ヒール2cm） ¥78,000（ジェイダブリュアンダーソン） / シジューム ギンザ 【2F】



CELFORD

一 真由子さん
プレス



どんなときも自分らしくいられるために、大切にしているのは好きな色を纏うこと。春らしいパターイエローのセットアップは、軽やかなバステルトーンで明るい気分になれます。大胆にスリットの入ったポンチョ風シルエットのチュニックブラウスとイージーウエストのパンツの絶妙なコンビネーションで、華やかなのにリラックス感のあるスタイルに。ドレスアップして出掛けたい、というおしゃれ心が満たされます。

セットアップ ¥23,100・ジャケット ¥26,400・チョーカー ¥5,940・ネックレス ¥5,940・バッグ（高さ14×幅26×マチ10cm） ¥16,500・サンダル（ヒール5cm） ¥16,500 / セルフワード 【4F】



FREEMANS SPORTING CLUB

田浦建一郎さん
GINZA SIX店 店長兼 ブランドMD



せっかく手に入れたお洋服は、長く愛着を持って楽しんでいただきたい。そこでおすすめしたいのが、日本の伝統の手芸の一つである刺し子を使った3ピースのセットアップスタイルです。元来丈夫な生地ですので長く続けられるのももちろん、インディゴ染めを施すことで経年変化も楽しめる仕上がり。胸に刺したチーフは首に巻いても良い。キャップでカジュアルに外した着こなしも楽しいと思います。

ジャケット ¥41,800・パンツ ¥28,600・ベスト ¥28,600・カットソー ¥10,450・キャップ ¥6,600・チーフ ¥4,400・シューズ ¥60,500 / フリーマンズ スポーツクラブ 【5F】



junhashimoto

橋本 淳さん
デザイナー



テーマは“アメカジの再構築”。MA-1はストレッチレザーでフロントをアシンメトリーにする事で通常とは違う表情を演出。スーツのパンツとしても使えるスラックスに、あえてデニム素材を使って遊んでいます。全体的に春らしい色合いを意識しつつ、さらに珍しい“ウグイス色”のニットパーカを入れる事で春の楽しさを強調。その分、足元はブラウンのレザーで落ち着かせるのがポイントですね。

ジャケット ¥187,000・ニットパーカ ¥41,800・パンツ ¥38,500・シューズ ¥80,300 / ジュンハシモト 【5F】



N.HOOLYWOOD

野村 命さん
GINZA SIX店 店長



ボクシーなシルエットでライトアウターとしても着用可能なフェイクレザーシャツのインナーに、ギンガムチェックのシャツで落ちついた雰囲気演出。ベルト不要で街でも家でも履いていけるほど快適なイーザーパンツには、今季注目のコラボシューズで軽快感をプラスしました。ファッションは自分だけじゃなく、相手の気持ちも豊かに明るくするもの。今こそ新しいお洒落を楽しんでいただきたいです。

シャツ ¥37,400・中に着たシャツ ¥30,800 (ともにN.ハリウッド コンバイル) パンツ ¥28,600 (N.ハリウッド コンバイル × グラミチ) シューズ ¥26,400 (N.ハリウッド × コンバース アディクト) / N.ハリウッド 【5F】



VULCANIZE London

中西俊英さん
ビジュアル・ディレクター



スタイリングのテーマは、上質なワードローブでいつもの日常をより“エレガントに楽しむ”こと。そして良質な服を手に入れることで、未来のビンテージとなりうる人生のパートナーのようなアイテムを発見する“楽しみ”を見つけること。一見シンプルなコーディネートですが、アイテム一つ一つに物語がある。組み合わせだけでなく、本質的な服の価値を見出すのもまた、スタイル作りの「JOY」ではないでしょうか。

ニットジャケット ¥159,500 (エス・ビール) シャツ ¥47,300・チーフ ¥15,400 (ともにターンブル&アッサー) デニム ¥39,600 (アイ&ミー) シューズ ¥148,500 (フォスター&サン) / ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】



ATTACHMENT

熊谷和幸さん
デザイナー



シングルのライダースジャケットは、立体成型で編み立てたストレッチミラノリブニット。スラックス仕立てのワイドパンツは、伸縮性抜群のジャージ素材。ルックスはシャープでいながら着心地は快適というギャップを遊んだ着こなしです。寒さも和らぎ活動的になる春。お洒落はしたいけれどそれが窮屈ではもったいない。男らしさとリラックス感を同時に楽しむことのできる、大人のストリートスタイルの提案です。

ブルゾン ¥38,500・カットソー ¥23,100・パンツ ¥29,700・シューズ ¥49,500 / アタッチメント 【5F】



Gente di Mare

豊田一樹さん
豊田貿易 営業本部長



異なる要素であるマリンとミリタリーを融合させ、ジェンテディ マーレのコンセプトであるエレガント&リラックスを表現したミックススタイルです。テラードジャケットとカーゴパンツとともに清涼感があるジャージ素材。ジップアップパーカを重ねることで季節感のあるスポーティーで軽やかなコーディネートを完成させました。シワになりにくくてケアが簡単なもの、重要な“楽”ポイントです。

ジャケット ¥74,800・パーカ ¥42,900 (ともにチルコロ 1901) Tシャツ ¥15,400 (フィリッポ デ ローレンティス) パンツ ¥38,500 (プリリア1949) シューズ ¥49,500 (フィリップモデル) / ジェンテ ディ マーレ 【4F】 ※2/26リニューアルオープン予定

Dressing for the Times

ファッションの抑揚

MM6 Maison Margiela

Dressing down



ブリーツをなびかせて春を歩く

家で過ごす時間が多くなると、スカートをはく機会が減っていることに気がつく。春の空のような爽やかなライトブルーのブリーツスカートは、身につけるだけで晴れやかな気分になれそう。ハイウエスト&ミドル丈の使いやすいデザインで、トップスをインしてもアウトにしても楽しめる。ポリエステル100%なので、いつまでもブリーツを美しく保ってくれるのもうれしいポイント。

スカート ¥56,000 / エムエム6 メゾン マルジェラ 【3F】



Going out

テレワークに最適なモードな部屋着

テレワークが日常になって、会社やクライアントとの会議はZoomで行うのがもはや一般的に。そうなる、大事になってくるのが上半身の見え方。このトップスは、裏毛のスウェットの上にビスチェを貼り付けたハイブリッドなデザインが特徴。スウェットの柔らかい着心地と、モードな雰囲気の両方が一着で味わえる。付属のベルトをギュッと締めれば、お出かけの勝負着としても使える。

トップス ¥54,000 / エムエム6 メゾン マルジェラ 【3F】

MSGM

Dressing down



サラリとまとえるロング丈のシャツワンピースは、春のお出かけにぴったり。1枚で様になるので、コーディネートも簡単です。



青木愛咲さん
GINZA SIX店
セールスアソシエイト

草原を駆け回りたくなるワンピース

「草原にいるところを想像してみる。生命の息吹、そして希望の香りがする。さあ、再生への準備を進めよう!」とは、MSGMのマッシモ・ジョルジュエッティが2021年のリポートコレクションに込めたメッセージ。春らしい色味のクレイジーストライプのワンピースは、そんな彼の言葉を体現したスペシャルなワンピースだ。ウエストの紐はリボン結びにしても、だらりと垂らしても様になる。

ドレス ¥63,800 / エムエスジーエム 【3F】



Going out

自然回帰を連想させるパーカ

MSGMはイタリアのブランドにしては珍しくストリートも得意としている。マッシモ・ジョルジュエッティは、ドレスとストリートの両方を自在にミックスする感性を持つ、稀有なデザイナー。自然回帰を連想させる上品な色合いのタイダイカラーのパーカは、ステイホームの気分を上げるのにぴったり。オーバーサイズを選んで、パートナーとシェアするのも楽しそう。

パーカ ¥52,800 / エムエスジーエム 【3F】



Going out

ドレスを日常生活に取り入れる

結婚式やパーティーが自粛され、ドレスを着る機会がほとんどなくなりました。でも、紳士のスーツのように、女性にとってドレスは大切なもの。デコルテを大胆に露出するスクープネックが特徴のベンシルドレスは、マックイーンのストイックな世界観が堪能できる一着。生地はクラシックなプリンス・オブ・ウェールズ (チェック) なので、インナーを合わせれば日常的に楽しめる。

ドレス ¥229,900 / アレキサンダー・マックイーン 【3F】

流行に左右されないテーラード

アレキサンダー・マックイーンは華やかで構築的なドレスを得意とする一方で、サヴィル・ロウに裏打ちされたテーラードも充実している。漆黒のテーラードスーツはフィジカルなビジネスの現場でも力強い味方になってくれるはずだし、Zoom会議ならTシャツの上にジャケットを羽織るだけで様になる。クラシックかつエレガントなスタイルなので、流行に左右されず長く使える。

ジャケット ¥239,000 / パンツ ¥104,500 / アレキサンダー・マックイーン 【3F】

ALEXANDER McQUEEN

Dressing down



Going out

ブランドのアイコンを堪能する

今シーズンのテーマは「LANGUAGE (言語)」。女性も男性も共通の言語として着用できる服を作りたかった」とクリエイティブディレクターのアレッサンドロ・デラクアの弁。中央にギャザーを寄せたエレガントなドレスは、男性的なチェック柄と女性的なチェーンの組み合わせ。そのクリエーションの真髄を体感できる、特別な日のお出かけに相応しいドレスだ。

ドレス ¥180,000 / スメロ ヴェントゥーノ 【3F】



Zoom会議に最適な華やかなTシャツ

Tシャツは楽チンだけど、流星に1枚でZoom会議に参加するのは気がひける。そんな時に便利なのが、装飾系のこちら。スメロ ヴェントゥーノのブラックのTシャツは、シグネチャーのひとつであるレースの襟と、キラリと光るクリスタルの装飾があしらわれている。袖がフレアしたシルエットも抜群に今っぽい。家でも外でも着回せるヘビロテ間違いなしの逸品だ。

Tシャツ ¥49,000 / スメロ ヴェントゥーノ 【3F】

N°21

Dressing down



MACKINTOSH

Dressing down



長年愛用できる本物のトレンチ

ベージュのトレンチコートは、男女ともに都市生活を送る上でマストなアイテム。合わせる服を選ばないし、あると何かと便利なのだ。ロロ・ピアーナ社の透湿防水素材のトレンチは、ガンパッチをなくしたクリーンなフロントと、背中側のエレガントなアンブレラケープが特徴。流行に左右されず、長年にわたって愛用できるはずだ。トレンチは本物を選ぼう。

コート ¥149,600 / マックイントッシュ 【3F】



Going out

雨の日が楽しみになるレオパード柄

お気に入りのベージュのトレンチコートを既に持っているなら、2着目として選びたいのがレオパード柄のトレンチ。レオパードは着るだけで強い女性を演出できるし、背筋が伸びるような感覚が味わえる。素材は雨風に強い高密度ナイロンで、レインコートとして梅雨の時期まで活用できる。こんなコートを手に入れたなら、きっと雨の日の外出も楽しみになるに違いない。

コート ¥129,800 / マックイントッシュ 【3F】

レオパード柄のトレンチは今シーズンのイチ押し。コーディネートも華やぐので、ぜひお試しください。

浅野英昭さん
GINZA SIX 店 店長



alexanderwang

Going out



Dressing down

オーバーサイズの華やかなシャツ

クリスタルのラインストーンが付いているストライプのボタンダウンシャツは、トラッドとモードの中間的な雰囲気。遠目ではベーシックなストライプシャツに見えるが、近くで見るとラインストーンが燦然と輝く。シルエットはウエストの絞りがないオーバーサイズ。ジャケットのインナーに合わせるというよりは、主役のアイテムとしてデニムにさらっと合わせたい。

シャツ ¥102,300 / アレキサンダーワン 【3F】 ※3月入荷予定

NYの最新に触れられるジャケット

メンズライクなブラックデニムのブレザーは、ニューヨークのモードの最先端に触れられる“攻めた”アイテム。全体的にはクリーンな雰囲気、クルミボタンはタキシードのようだが、ヘムには穴開き加工、振り切れた加工が施されている。この二面性が素敵なのだ。レザーパンツに合わせればロックな装いになるし、ワンピースやドレスの上から羽織ればエレガントにもなる。

ジャケット ¥130,900 / アレキサンダーワン 【3F】

BARBOUR

Dressing down



Going out



永遠の定番を自分色に染める

ブランドを代表する「ビディル」を、現代のスタイリングにフィットするように見直したモデルがこちらの「ビディル SL」。重すぎず軽すぎない6オンスのワックスドコットンを採用しているため、初春の羽織りにはピッタリだし、気温が低い日は梅雨のレインコートとしても使える。自分の体に馴染ませていくのは、このジャケットならではの優雅な楽しみだ。

コート ¥53,900 / バブアー 【5F】

通年で使えるノンワックス版

右のノンワックス版となる「ビディル SL ビーチド」は、ワックスドコットンのジャケットを着込んでオイルが馴染んだような雰囲気。ナイロン、ポリエステル、コットンの三種混の生地にブラッシュド加工を施すことで、うすらと起毛した独特の素材感を実現している。オイルのベタつきが気になる人は、こちらを選ぶのが正解。気軽にバブアーの世界観が楽しめる。

コート ¥37,400 / バブアー 【5F】

BRITISH MADE / Drake's

Dressing down



裂けにくいリップストップのスーツ

日本製のコットンリップストップ生地を使った新作のセットアップ。“ゲームアプレザー”という名前の通り、狩猟用のユニフォームをイメージしたカジュアルでゆとりのあるスタイルが特徴となる。丈夫なコットン素材なので、家での仕事にも対応するし、インナー次第ではドレスアップも可能。襟は首元まですっきり閉じられる構造なので、襟を立てた着こなしも楽しめる。

ジャケット ¥103,400 / パンツ ¥67,100 / シャツ ¥34,100 / プリティッシュメイド / ドレイクス 【5F】

Going out



ラギッドにもドレススタイルにも

堅牢なクロスステッドを使用したチョアジャケット。毛足の短い起毛面が特徴で、ブーツの補強パーツや登山靴のアップーなどに使われるほどの強度をもつ。カラフルなクレイジーカラーもあるが、こちらのシックなブラウンベースはGINZA SIX店のみ限定。ラギッドなスタイルはもちろん、ドレススタイルの外しとしても使えそうだ。

ジャケット ¥199,100 / プリティッシュメイド / ドレイクス 【5F】

ブラウンベースの色味はGINZA SIX店のみ展開です。肌触りがとにかく最高なので、ぜひ試着して確かめてください！



中川貴弘さん
GINZA SIX 店 スタッフ

Dressing down



日本人には茶色が似合う

あるクラシコ・イタリアの重鎮から「日本人にはブラウンが似合う」と聞いたことがある。清涼感のあるウール100%のゼニアの生地は、ブラウンにグレーを混ぜたベースの上に、ブルーのウインドペンを入れたもの。ネイビーのポロシャツを合わせれば、上品な“アズーロ・エ・マローネ”が完成する。部屋着の上からサッと羽織れば、Zoomのビジネス会議にも使えそうだ。

ジャケット ¥165,000 / シャツ 参考商品 / リングジャケット マイスター 【5F】

Going out



RING JACKET MEISTER

高温多湿な日本の夏に最適なスーツ

リングジャケットのテラードは、日本人の骨格に合うパターンを採用し、肩パットや芯地などの副資材を極力省いているので、軽くなやかな着心地が楽しめる。グレーベースに少しグリーンが入った別注生地、混率はモヘア60%、ウール40%。通気性が良くシワになりにくいので、高温多湿の日本の夏に最適。開襟シャツを合わせれば、カジュアルにも着こなせる。

スーツ ¥220,000 / シャツ 参考商品 / リングジャケット マイスター 【5F】



美シルエットで穿きごたえがあり、1本は必ず持っていて欲しいデニムです。永くご愛用いただけること間違いありません。

高橋修平さん
GINZA SIX 店長

DENHAM

様々な用途に対応する春コート

肩が大きくドロップしたAラインの美しいシルエットのバルマカーンコート。遊び心のあるプリントと、オレンジのステッチがデザインのアクセントになっていて、裏地は同系色のオレンジのメッシュ。背中のアクションプリーツ（ウイングバック）は、デンハムのオリジナルのディテール。撥水加工も施されているので、レインコートとしても使える。

コート ¥91,300 / デンハム 【5F】



デニムはお出かけ着としてこたわる

定番のテーバードスリムフィットの「レイザー」。もも周りは程よくゆったりしていて、裾にかけて緩やかにテーバードする細身のシルエットで、合わせる服を選ばない。アメリカ綿とオーストラリア綿をミックスした13オンスのセルビッチデニムは、タテ糸にムラの違う2種類の綿を使用し、酸化インディゴで染色している。お出かけに最適な特別なデニムだ。

ジーンズ ¥50,600 / デンハム 【5F】

Going out



JACOB COHEN

ジーンズブランドをトータルで

ジーンズブランドのデニム以外のアイテムは、往々にして残念な出来であることが多かったりする。でも、ヤコブ コーエンは違う。他のアイテムのデザイン、クオリティーも素晴らしく、旬なデニムスタイルがトータルで楽しめるのだ。ビンテージのスウェットシャツのディテールを再現したこちらのハイゲージのコットンニットも、そんな良質なアイテムのひとつ。

セーター ¥47,300 / ヤコブ コーエン 【5F】



ガルーシャパッチの特別なデニム

ヤコブ コーエンは通常ラインに加え、イタリアメイドのスペシャルな限定デニムをシーズンごとに用意しているのをご存知だろうか？ 滑らかなスーパーコットンを使用したこのデニムは、極上のはき心地が味わる。デザインのポイントとなっているのは、各所に効かせたグリーンステッチと、ガルーシャのレザーパッチ。バックポケットに入れたパンダナも付属する。

ジーンズ ¥106,700 / ヤコブ コーエン 【5F】



SOPH.

洗練されたオーバーオールを日常に

耐久性と軽さを備えた「ユニフォーム エクスベリメント」のオーバーオール。全身を黒でコーディネートすれば、モードなワークウエアとして街でも映えそう。程よくリラックスしたシルエットなので、家の中でものんびりくつろぐことができる。デザインのポイントは、胸元の「UE」のサークルロゴ。ソリッドなブラックに加え、ワークテイストなムードのカーキも展開している。

オーバーオール ¥42,900 / ソフ 【5F】



Going out

ジャケットとTシャツをお揃いで

ソフトな肌触りで伸縮性と耐久性に優れたソロテックス®を使用した2つボタンのシングルジャケット。同素材のパンツもラインナップしているので、セットアップとして着ることも可能だ。胸ポケットのチーフは、オリジナルで製作したマルチボーダー。同じ色柄のTシャツを合わせれば、カジュアルながら特別感のある装いになる。流行再燃のベルボトムのデニムにも似合いそうだ。

ジャケット ¥53,900・Tシャツ ¥18,700 / ソフ 【5F】

Dressing for the Times

正月明け、私はファッション好きとしての襟を正した

未知のウイルスが地球に襲来してから1年が経った。私たちは日々マスクをして、無言で電車に乗って、あるいは車に切り替えて、家に帰ったら真っ先に手を洗ってうがいをして、シャワーを浴びる生活が続いている。外食も何かと気を使うし、旅行にも行きづらくなってしまった。私の場合、気の合う友達や美しい女性と気軽に食事に行けないことが、何より大きなストレスになっている。もともと1人で過ごすことにストレスを感じないタイプだが、たわいもない会話を交わしながら美味しい食事を共にすることが、これほどまでに愛おしい行為だったとは思ってもみなかった。

もうひとつの悩みは、着飾って出かける場所がなくなってしまったことだ。私はアラフィフになっても、好きな服を着ることを生き甲斐にしている。一切の迷いなく厨二病であり続けている。ファッション業界というのは、どの業種よりもパーティーが日常に溶け込んでいる業界だ。展示会シーズンは毎日のようにパーティーがあり、金曜ともなると3~5件をハシゴする生活を続けてきた。それがパタンとなくなった。私は埼玉の田舎に住んでいるのだが、展示会も対面の取材も必要最低限になったので、東京へ出る機会も減った。

そして僕は、大沢誉志幸よろしく、途方に暮れた。家を埋め尽くす膨大な服の山を見て、それを着ていく場所がないことに。じゃあ断捨離を…となるのが普通の人間の思考だと思うが、自分も一旦はそう決心した。サイズアウトしたものやこまりさんの言うトキめかないものは、後ろ髪を引かれつつも、メルカリやヤフオク！を通して次の人に引き継いでもらった。でも、クローゼットは現状をキープするどころか、混雑度が増している気がする。埼京線に例えれば、乗車率は180%だ。

理由は明快。売るより買う頻度のほうが圧倒的に高いからである。コロナ禍でぼっかり空いた余暇の少なからぬ時間を、私はメルカリ、ebay、ヤフオク！をディグることに費やしてきた。そして、まだ注目している人が少ない古着のジャンル=ブルーオーシャンをいくつか発見し、買い物に歯止めが掛からなくなってしまった。「これはファッションを生業とする自分の仕事の一環だから」という台詞は、毎日のように届く“ブツ”に苦しい顔をする家族に対する言い訳だが、最近ではもはや無言でスルーされるようになってしまった。

しめしめ(笑)。じゃなくて、もうひとつ重要なことに気がついた。昨年は新品も含めてほとん

ど店頭で服を買っていないということに。私はお店で詳しい店員さんと相談しながら買うという楽しみを放棄していたのだ。1月も10日過ぎた頃、今年の初めてのお買い物が届いた。今や世界が目指す浅草発のレザーブランド「Hender Scheme (エンダースキーマ)」とカシオがコラボレーションした特別な時計。なんでも、浅草の直営店(スキマ羽橋)に持ち込めば、好きな刻印を入れてくれるという。

私はいそいそとお店に向かった。はじめましての店長さんと店員さんと、旧知のプレス担当者と相談しながら文字の大きさや色を決め、フランス語で「Montre de Kaiji」(kaijiの時計)と自分の名前を刻印してもらった。小一時間、私は店頭でのお買物を楽しみ、その素晴らしさを思い出した。ここで買いたいというお店と、この人と会話をしながら買いたいと思う人がいることは、服好きにとって財産みたいなものだ。ECでのお買い物は便利だけど、GINZA SIXのようなお店でしか味わえないお買物の楽しみは絶対あるし、それは今後も変わらないと思う。私は2000円の刻印サービシに深く満足し、ファッション好きとしての襟を正したのである。



リボンに包まれたGINZA SIX。よろこびを忘れた色のない世界から、ファッションの抑揚が待つカラフルな世界へ、誘う人々が描かれています。

Illustration: Shinji Abe

文 増田海治郎 Kaijiro Masuda

ファッションジャーナリスト。1972年生まれ。雑誌編集者、繊維業界紙記者を経て独立。自他ともに認める“デフィレ(ファッションショー)中毒”で、コロナ禍前のファッションショーの取材本数は年間約250本。著書に「浪カジが、わたしを作った。」(講談社)がある。



LOUNGE SIX

Spirits Lifted

ファッションで旅する GINZA SIX

移動がままならない今だから、たとえば旅するように、GINZA SIXを巡ってみる。
ドレスコードは冒険心を後押ししてくれるパワーブランドの最新コレクション。
その心の赴くまま、自由に、よろこびを感じる場所へ。

LOUNGE SIX

GINZA SIXにあってここだけ趣を異にする横幅10メートルにおよぶ黒漆喰の外壁に、大正時代の看板建築などに使われたブリキを貼った鉄板の扉が密かな目印。VIPだけがアクセスできる「ラウンジックス」【5F】は、古様な素材を現代に再編集する世界的な現代美術家の杉本博司と建築家の榎田倫之が主宰する「新素材研究所」による空間デザイン。かつての日本建築からの古い銀座の街並みにも心を誘わせてくれるような場所だ。そんな知る人ぞ知る名所の前では、スティックなモノクロームの素材とは対極の目が覚めるような赤をアクセントカラーに春夏コレクションを展開した、フェンディのビビッドなテラリングスタイルで。

左/シルクとコットンリネンを組み合わせたシアーなシャツ〈インナーキャミソール付き〉¥218,900・赤のタック入りのワイドパンツ ¥148,500・メッシュラフィアのブーツ〈ヒール9.5cm〉¥203,500 右/ウールリネンのシングルジャケット ¥254,100・フラワープリントのオーガンジーシャツ 参考商品・タック入りのバミューダパンツ ¥72,600・ベルト 参考商品・シューズ 参考商品 (フェンディ) /フェンディ 【B1F~3F】



LOUNGE CHAIR

できるだけ手の温もりを感じるハンドメイドの素材を使い、そのレイヤーとクオリティを通して身近な空間に感じられる親しみを。GINZA SIXの館内は共用部の空間デザインを手がけ、世界で数多の賞に輝いてきたグエナエル・ニコラによるそんな美学が貫かれている。なかでもハレの日にふさわしいレストランが連なる13Fのパブリックスペースは、タイルもカーペットもオリジナルのチェアもターコイズブルーで統一したファッショナブルな空間。装うディオールの未来的なイエローのジャンプスーツは、素朴な手編みニットを袖からちらりと覗かせ、空間同様、程よいクラフトマンシップを漂わせて。

p.18: シャツカラーのジップアップジャンプスーツ ¥517,000・フラワージャカードのローゲージニット ¥159,000・スエードのレースアップブーツ ¥176,000 (参考価格) (ディオール) / ハウス オブ ディオール ギンザ 【B1F~4F】

TEPPANYAKI 10 GINZA

広いラウンジ風のフロアとカウンターを挟んだオープンキッチンがGINZA SIX屈指の開放感にあふれた、普段使いの鉄板焼き専門店「テッパンヤキ テンギンザ」【6F】。そのエントランスでは華やかな場を訪れたときの高揚感が沸き上がるような、店名の「10」をかたどったご賓のメタリックなオブジェが迎えてくれる。ただ、よく見るとラメのように煌く無数の造形はなんと、鉄板焼きを象徴するコテ。そんなフェスティブな気分を盛り上げるのはフェーシャビンのビッグシャツ。ヴァレンティノの手にかければ、クチュール仕立ての一篇に。ボトムスにショートパンツを合わせたリラックスモードが気分。

p.19: オーバーサイズのタフタシャツ ¥341,000・レザーのショートパンツ ¥319,000 (参考価格) (ヴァレンティノ)・ピアス ¥49,500・プレスレット ¥67,100・アトリエシューズのスリングバック (ヒール4 cm) ¥148,500 (ヴァレンティノ ガラヴァーニ) / ヴァレンティノ 【B1F~4F】





THE GRAND GINZA VIP ROOM

ラウンジ、レストラン、シェフズカウンター、パンケット、多目的ホール…などの空間からなる「ザ・グラン 銀座」【13F】には、茶室が併設された和のVIPルームが存在する。インパクトを放つのはGINZA SIXの4Fに「JOTARO SAITO」として店を構える京都の着物デザイナー齊藤上太郎が描いた屏風絵。絶滅危惧種のトキには日本の文化を後世に、地球には日本の文化を世界に…との想いが込められているが、非日常的なオケーションを堪能するなら、小粋なドレスアップで。パワーショルダーが際立つジャケットをセンシュアルなムードに昇華させるスタイリングは、サンローランならでは。

p.20: 左/ゴールドボタンのダブルプレストブレザー ¥396,000・シルク地のポウブラウス ¥220,000・ラムレザーのショートパンツ ¥418,000・ストラップサンダル(ヒール9.5cm) ¥143,000 右/ジャカードの1つボタンジャケット¥396,000・ドットプリントのシャツ ¥126,500・ジャケットとセットアップのパンツ¥170,500・ハイビスカスプリントのスカート ¥33,000・シルバーのメッシュモカシン(参考商品)(サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ) /サンローラン【B1F~2F】

BEAUTY FLOOR

銀座の街に残っている路地裏に着想を得て、ショップが並ぶ通路があえてジグザグにデザインされているGINZA SIXで、長い直線で貫かれた場所があるのをご存じだろうか。答えはゴールドが煌めくモザイクタイルが敷き詰められた、B1Fの目抜き通り。まるでランウェイのようなドリーミーなデザインは必見で、ここに行き着いたなら、ぜひモデル気分でご散歩してほしい。ブラックジャケット&ベストでハンサムに装いつつも、ブルージーンズでカジュアルダウンしたセリーヌのブルジョワスタイルは、豪華さをひけらかさない今の時代のラグジュアリーにふさわしい。シックさに際立つ端正な仕立てを堪能して。

p.21: ゴールドボタンのシングルプレストジャケット ¥341,000・5つボタンのウールベスト 104,500・タイ付きのシルクシャツ ¥137,500・ストレートシルエットのデニムパンツ ¥100,100・ベルト ¥53,900 ※すべて予定価格(セリーヌ バイ エディ・スリマン) /セリーヌ【1F, 2F】



上／顔料を加えた漆を部分ごとに塗り分けていく。塗っては乾燥させ、また塗ると、幾度もの工程を重ねて着彩を行っていく。牡丹の中央に螺鈿細工を行っているのが見える。下／山中温泉を代表する名勝、こおろぎ橋から鶴仙溪を眺める。総ヒノキ造りの橋は、2019年に架け替えられたばかり。



Pride and Craft

ものづくりを知るよろこび

伝統を受け継ぎながら、いまという時代を見据えること。
それがものづくりを続ける老舗の本筋だ。
過去から未来を往来する現場を訪ね、加賀と京都に向かった。



1 2 4 1. 山中では珍しく、上塗りを行う若い女性の塗師。2. 刷毛に使うのはしなやかな人毛。染色やトリートメントを行わない生の毛髪が良く、年々生産が減っている。
3 5 6 3. 黒地に朱の漆を塗る。この後、筆で均質にムラなく塗り重ねていく。4. こちらは下塗り工程にあたる摺漆。木地に漆を刷り込み、木の導管を目止めることで漏れをなくす。何度も工程を重ね、漆特有の奥行きある表情や色合いを出す。5. 山中は丸物と呼ばれる碗や鉢を得意とする産地。他に比べ、丸くくり抜いていくロクロ作業を得意とする。山中漆器は木地師の団体が定住し、木地を挽き始めたことに端を発する。温泉客に販売し、産地が成長した。6. 銀を塗る加飾作業風景。

塗り重ねた漆がもつ奥行き的美

山田平安堂

Yamada Heiando / Isbikawa

金沢から特急に乗り、加賀温泉駅から車で30分ほど。音もなく雪が降る山道を抜けると開湯1300年の温泉街、山中温泉にたどり着く。この地は温泉とともに漆器の産地としてよく知られる。漆と日本人の付き合いは長く、縄文時代より親しまれてきた。以来、人々は木に漆を塗り、碗、皿、鉢などに使ってきた。

1919年、初代の山田孝之助が東京・日本橋に創業したのが山田漆器店だ。無骨で実用的な漆器が多かった東京に、京都の漆器屋で修行を積んだ孝之助が持ち込んだ美しい漆器は人々を魅了した。のちに社名を現在の山田平安堂に変更。創業時より作家ものオリジナルを扱い、京漆器、輪島塗、そして山中漆器などを紹介してきた。つまり一世紀にわたって山中漆器を届けているのだ。

正月開けの一月、漆器の工房はどれも年末の慌ただしさを経て、ゆっくりとした時間が流れる。新年に漆器を新調する需要はいつも変わらず、年の瀬に向けて忙しさが増す。山中が得意とするのは碗や鉢などの丸物と言われる漆器だ。

漆器はまず、木を大まかに削って乾燥させ、ロクロで形を整えるところから始まる。ついで生漆で目止めをし、摺漆や拭漆と言われる作業に移る。布で木地に生漆を何度も摺り込む作業で、きれいに拭き取って乾燥させていく。その工程を4、5回にわたって重ねると、木目をしっかりと残しながら艶が生まれる。

漆はすべての工程において乾燥の工程が重要だ。そして漆の乾燥は水分を飛ばすことでなく、空気中の水分と結びついて硬化することを指している。湿度は70

～85%、温度は20～30℃が適切で、寒く乾燥しがちな冬から春にかけて、山中の作業場でストーブと葉巻は欠かせない。どの工房にも漆風呂と呼ばれる戸棚があり、そこに塗りを終えた器が乾燥のために並ぶ。それらの器は日をまたいで何度も塗り重ねられ、乾燥が早いと内部が乾かずに表面だけが硬化し、遅いとシワが入りツヤもなくなる。非常にデリケートな素材だが、完成に至ると防湿性が高く、使い勝手のよい器になる。

奥行きのある朱や黒を表現する工程が上塗りだ。さまざまな刷毛を側面や底部などの形状にあわせて使い分ける。漆を厚みのムラなく塗ったあとは丁寧にホコリやゴミを取り除く。さらに漆器を工芸品の域にまで高めるのが、絵付けや蒔絵などの加飾作業である。複雑な表現は日

をまたいで塗り重ねられ、独特な奥行きを生む。これら作業はすべて分業で、完成までには多くの時間を要するのだ。「漆器にはいくつもの産地があり、それぞれに得意とする分野が異なります。山中は丸物のほとんどを生産する産地。ですからロクロが上手い職人がおり、漆の塗りが上手い職人がいる。産地というよりもすべては彼らの技術次第です」と四代目当主の山田健太さんは言う。

コロナ禍の今、自宅の時間が見直されていることから、これまで以上に碗へ関心を持つ人が増えているという。

「漆碗は木製で断熱性もあり、手に優しい温かみを伝えます。口当たりも優しく、自ずと手が正しい持ち方を覚えます。実は炊きたてのお米とも相性がよく、飯碗もぜひ試していただきたいですね」



Recommendations

左／櫛は堅牢性と弾力性に優れ、木地を薄く挽くことができる。その器は陶磁器に比べて1/4ほどの軽さ。大碗でも軽やかに楽しめる。大碗 櫛平筋 神代¥11,000 中／金銀箔や粉、金銀の塗料に漆を塗り重ねて独特の館色を表現する白檀塗り。経年変化で下が透け始め、奥行きを増す。吸物碗白檀¥30,800 右／生漆を木肌に何度もすり込んで生まれる美しいめし椀。こちらも櫛で薄く軽い、肌に優しいぬくもりを届けてくれる。めし椀 櫛 あかね¥5,280/すべて漆器 山田平安堂【4F】



旨味が宿る深緑の銘茶

中村藤吉本店

Nakamura Tokichi Honten / Kyoto

- 1 本店奥の中庭に面した座敷。和があり、予約制で薄茶一服とスイーツが楽しめる。中庭の奥に初代が三室戸寺近くより移築した茶室も。中庭と反対側の格子窓からは駅が眺められるほど至近でありながら、静かな別世界のような。2 本店の奥まで続く座敷。勝海舟による書「茶種水日香」などが飾られている。3 本店のショップとカフェをつなぐ中庭。最近、中庭の下に防空壕を確認し、補修を行った。4 工場での菓子作りではふんだんに抹茶が使われる。5 こちらはフィナンシェの作業風景。製造現場では多くの作業が手で丁寧に行われる。6 一番茶、二番茶、三番茶をそれぞれに淹れて見比べ。素人目にも品質の差がわかるほど色が違う。



上／手前の青みがかった茶葉が高級品の一番茶。お茶をいれても緑の色が他と違い、しっかりとした旨味をもつ。下／JR宇治駅から徒歩1分の好立地にある本店。1854年(安政元年)の創業時に初代がここで製茶を始めた。現在のメインエントランス棟はかつて、茶葉の品質鑑定にも使われていた。

「きれいな緑色だと思いませんか」

良いお茶とはなにか、という質問に答えるかたちで、中村藤吉本店専務取締役の中村省悟さんはいくつかの茶葉を広げて見せてくれた。つい先ほど摘まれたかのように鮮やかな緑とみずみずしい葉の表情。良質の茶葉は見ると美しく、素人目にもその差は歴然だ。

紫式部の時代から物語の舞台にもなってきた京都南部の宇治は、古くから茶葉の栽培で知られる。山間地で寒暖差があり、雨は多いが水はけはよく、宇治川から立ち上がる霧が新芽を育てるにも好都合だった。崖地の畑で丁寧に生産された茶葉は、高級茶として取り扱われる。

中村藤吉本店の創業は1854年(安政元年)。初代中村藤吉が宇治橋通六番町に茶商「中村藤吉」を創業した。現在の六

代当主まで藤吉の名は代々継がれる。芽茸き職人を父に持ち、茶商のもとへ丁稚奉公を経て事業を起こした初代の血は、常に時代を見据えるものなのだろう。二代目は茶臼の電動化で特許を取得。六代目もいち早く日本茶を使うカフェやスイーツの展開で、新たなファン層を獲得した。東京では唯一、GINZA SIXにカフェと物販を設け、店内に本店、京都やお茶文化の意匠をちりばめる。彼らの絶え間ない努力は、お茶の魅力を伝えるためにある。「急須で淹れるお茶に限らない、幅広い入り口を設けることが私たちの役割です。お茶を飲みたくなる環境づくりに力をいれ、日常的な文化にしていきたい。スイーツも当初は試行錯誤でしたが、お茶の美味しさを知っていただく風味を目指し、それに最適な茶葉を選んでます」

中村さんは学生時代、京都にオープンしたばかりのスターバックスの存在を見て、これだけ珈琲を楽しむ文化があるのかと驚いたと振り返る。現在は自身も製品の開発に携わり、日本茶と人々を繋ぐ新たな可能性を探り続ける。

「ほろ苦いと表現されることの多い抹茶ですが、実は美味しい抹茶に苦味はなく旨味が宿るもの。農家が茶葉を育てる際には寒冷紗(植物を日差し、寒さ、風、虫などから守る被覆資材)で覆い、洗みのない茶葉を育てています」

茶葉が日光を浴びて光合成を起こすと葉のなかで渋み成分であるカテキンが増える。代わりに遮光することで旨味に繋がるアミノ酸を残す。だから抹茶は苦味ではなく、甘味と旨味のお茶だと中村さんはいう。こうした茶葉の品質鑑定も大

切な仕事だ。黒い机の上で、色、味、香り、見た目の美しさなどを基準に鑑定を行う。かつては本店の明かり取りの窓の下、代々その作業を受け継がれてきた。冒頭で試飲したお茶も旨味が凝縮され、口内に豊かな緑が広がるかのようだ。

「まずは色で質がよくわかります。一概に緑といっても、青に近い緑、赤に近い緑とありますよね。青いものがいいですね」

それらの茶葉を見ながら、茶のブレンドを意味する合組の内容や焙煎、火入れのバランスを考える。

「とはいえ良いお茶は、その人が飲んで美味しいお茶。旨味をしっかりとつのお茶は美味しいけれど、ごくごく飲むようなものではありません。僕は番茶を水のように飲みます。お茶の楽しみは無限にあり、自由なものなのです」



Recommendations

左／中村藤吉本店を代表するブレンド茶、中村茶。煎茶や玉露など7種類の茶を秘伝の割合と方法で合組し、湯温によって異なる風味が楽しめる。単独の茶葉では味わえない趣ある風味が魅力だ。中村茶(50g袋入) ¥1,080 中／抹茶味のクッキーとチョコレートをサンドしたラングドシャは軽い食感だが、濃厚な風味が口内に広がる。銀座店限定。抹茶ラングドシャ ¥1,620 右／特製抹茶館が入った深い緑色のゼリイ。銀座店限定。生茶ゼリイ 深翠 ¥450/すべて中村藤吉本店 [4F]

Eternal Enjoyment

永遠なるJOY



Gather

集う

気のおけない友人たちが集まるシーンは今や「小人数で小一時間」が鉄則。ならば、舌が悦ぶ美食をつまみながら、濃厚なおしゃべりを満喫したい。ドレスコードは、限られた楽しい時間を贅沢に刻むラグジュアリーウォッチで。

左上/日本の美意識に根付く色彩を表現したモデル。品格のあるグレーは銀座の石畳から。ウォッチ「ルキア Japanese Beauty from GINZA」〈SS、クロコダイルストラップ、縦41.8×横34.8mm、自動巻き〉¥159,000/セイコーブティック【5F】 左下/1960年代のグラマラスなムードにウォッチメイキングの技術が融合した逸品。ウォッチ「ライムライト ガラ」〈PG、ダイヤモンド、ケース径32mm、自動巻き〉¥5,148,000/ピアジェ ブティック【1F】 中左/今年で誕生から90年。端正なデザインながら、多様性をも表す最上級のマスターピース。ウォッチ「レペルソ・クラシック・スモール・デュエット」〈PG、アリゲーターストラップ、縦34.2×横21mm、手巻き〉¥2,068,000/ジャガー・ルクルト【1F】 中右/クロスシーのアニバーサリーモデルは、桜の花びらが重なる可憐な美しさを表現。ウォッチ

「クロスシー 25th Anniversary Limited Model」〈スーパーチタニウム™、ケース径29mm、数量限定2,000本〉¥132,000/シチズン フラッグシップストア トウキョウ【1F】 右上/固定概念を覆す遊び心に富んだタイムピースで、日常からの開放感を楽しみたい。ウォッチ「ヴァンガード レディ クレイジー アワーズ」〈PG、クロコダイル×ラバーストラップ、縦42.3×横32mm、自動巻き〉¥2,750,000/フランク ミュラー ジュネーブ【2F】 英国発のショコラティエのベストセラー「マカロン」は、ブラリネホイップを、なめらかなチョコレートディスクでサンドした至福の味わい。〈1箱8個入り〉¥1,500/ホテルショコラ【B2F】 ネイル「uka ベージュスタディ ツー」(左) 8/2 (中)、1/2 (右) uka ピンクスタディ スリー 2/3 (各10ml) ¥2,420/ウカ【B1F】

恋焦がれ手に入れたアイテムを身に着けた際のときめきは、いつでも、また、どんな状況でも気持ちを高揚させるプレシャスなエナジー。新しき世界をポジティブに楽しむ姿勢があればこそ、よろこびは輝きを増す。



Unwind

緩む

リラクスの新境地とは、肉体はもちろん、感覚をもしなやかに弛緩させること。今の気分フィットする香りを身体の内へと吸い込めば、やがて心地いいまどろみの中へ。心を整えるマインドフルネス効果も大いに期待できそう。

左から/「香りを空間に満たすのではなく、よりパーソナルなスペースで寄り添う香りのデバイス」と、調香師のジュリアン・ペデルが考案したパーソナルパフュームディフューザー。手仕事で彫刻されたブロンズのケースにセットされた香りが、デスクや寝室の枕元といった場所で繊細に香る。「ハカランダ」(10ml) ¥40,700/フエギア1833【3F】 ※4/9オープン予定 ナポレオン様式の蜂のシンボルをあしらい、ブランドの伝統と格式を表すゲランのアイコン「ビーボトル」。店頭で好みの香りとりボンを選び、メッセージを刻印できる独自の仕様も健在。香りに癒され、金色に輝くボトルを眺めながらうっとりする時間もまた幸福。「ゴールデン ビーボトル」(250ml) ¥72,820/ゲラン【B1F】 ※4/12オープン予定 ブランドデビュー15周年を記念して誕生した新作フレグランスのボトルは、ま

ゆい光を反射する宝石を模したデザイン。フルーティーフローラルブルーの香調がトップからラストにかけて甘く重なり合う香りは、ダイヤモンドの煌きをイメージしているそう。「プリリアントジュエル オードパルフアン」(50ml) ¥8,800/ジルシュエアートビューティアンドパーティ【B1F】 イタリアのサヴォアフェールと洗練を象徴する香りがアクア ディ パルマの真骨頂。オレンジ、マンダリン、レモンの鮮やかなトップノートが弾けるアランチャは、ムスクの官能的なノートまで続くタッチが人気の定番。地中海の太陽と海を彷彿とさせるブルーのボトルもスタイリッシュ。「ブルー メディテラネオ アランチャ オードトワレ」(150ml) ¥22,000/アクアディ パルマ【B1F】 ※4/12オープン予定 ネイル「uka ベージュスタディ ツー 1/2」(10ml) ¥2,420/ウカ【B1F】



Enliven

弾む

素足で颯爽と履きたいシューズを並べて、お気に入りのコーディネートとともに、自宅でソロ・ランウェーショー。パワフルに、ときにクールに、ターンは軽やかに。好きな音楽と弾むステップで、新しい季節の到来を待ちわびたい。

左から／ローカットスニーカー“ハワイ”の新作は、アッパーに大小のクリスタルを散りばめたラグジュアリーな一足。スニーカー ¥218,900 / ジミー チュウ 【2F】 建築家でもあるレム・D・コールハースがデザインを手掛けるロンドン発のユナイテッド スードは、ミニマムで構築的なデザインが持ち味。この春は、幅広いストラップとヒールが一体となったサンダルで、足元にクールなモダンティをプラスしたい。サンダル“LOOP HI”〈ヒール8.5cm〉¥37,400 / ユナイテッド スード 【4F】 ※3/7オープン予定 パウダーピンクのパテントレザーが、春らしい気分してくれるローヒールミュール。シャープなボインテッドトゥと、甲にアタッチされたアイコンックなメタルロゴプレートが、着こなしにモードなテンションを添えて。ミュール“sr1”〈ヒール4.5cm〉¥95,700 / セルジオ

ロッシ 【2F】 シンプルなオープントゥミュールにチャーミングな愛らしさを加えているのは、ぷっくりとしたレザーのストラップ。ローズピンクの華やか色合いもスタイリッシュ。ミュール〈ヒール5.5cm〉¥105,600 / ジャンヴィト ロッシ 【2F】 グリーンサテンのアッパーに配されたオーナメントクリスタルが華やかなインパクトを放つパンプスは、1920年代のロンドン社交界の上流階級の若者たちのコスチュームからインスピレーションを得たもの。デザイナー自身が選ぶお気に入りのシューズラインからのピックアップ。パンプス〈ヒール3cm〉¥181,500 / マノロ ブラニク 【2F】 サンダル“LOOP HI”〈ヒール8.5cm〉¥37,400 / ユナイテッド スード 【4F】 ネイル“uka カラーベースコート ゼロ 11/0”〈10ml〉¥2,200 / ウカ 【B1F】



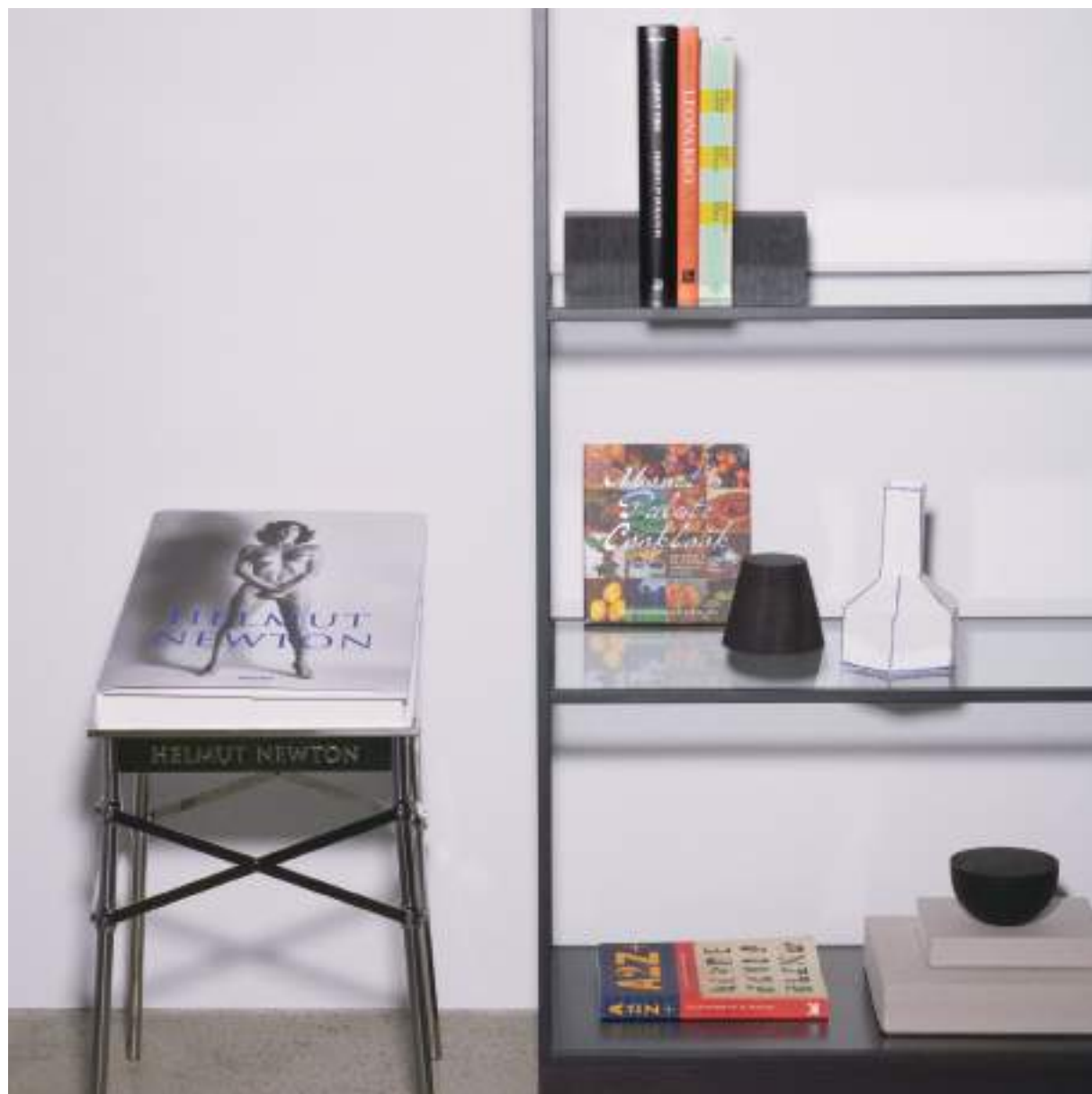
Decorate

彩る

お気に入りのバッグは艶やかな質感とスタイリッシュなフォルムをアートピースに見立て、自室に飾ってみるのも一興。生花とあわせたり、オブジェのように重ねたり。インスピレーションのおもむくまま、自由に奔放に。

左から／1958年の誕生以来、上品で洗練された佇まいで60年以上も愛されてきたシグネチャーバッグ“プリオン”。繊細かつ最上級のクラフトマンシップに裏打ちされた定番バッグに、個性的でスパークリングな魅力を加えているのが、ハンドル部分にアタッチしたリングチャーム。2019年にメゾン誕生190周年を記念して登場したアクセサリは、クリスタルの輝きがタイムレスな魅力をいっそう昇華させている。バッグ“プリオン”〈高さ21.5×幅29×マチ13.5cm〉¥722,700、チャーム“ワンダリング スパークリング ストライプス クリスタル ノワール”¥67,100 / デルヴォー 【2F】 両サイドのウイングをたたむ&広げることで異なる表情が楽しめるロエベの新アイコンバッグに、春らしいアナグラムジャカードをあしらった異素材ミックスパージョンが新登場。上質なカーフレザーと

のコントラストも軽快で、ショルダーとハンドルの2WAYで持てるフレキシブルさもうれしい。スタイリッシュなコーディネートに合わせるのももちろんのこと、散歩やそぞろ歩きなどにも重宝しそう。バッグ“ハンモック アナグラム スモール”〈高さ25×幅13.5×マチ30cm〉¥297,000 / ロエベ 【1F】 モダンでありながら上質なレザーの柔らかな質感が人気のアイコンバッグ“アイリス”に待望のミニサイズがお目見え。サイドのドローストリングでフォルムを自由に変えられるほか、レザーを編み込んだトップハンドルが、小ぶりながらも優美な印象を増幅させている。フロントには、英国が誇るクラフトマンシップの粋を象徴する、スタッズ型のキーストーンロックがシンボリックに輝く。バッグ“ミニ アイリス”〈高さ14.5×幅22×マチ9.5cm〉¥129,800 / マルベリー 【3F】



Discover

知る

暮らしかた、装いかた、さらには人としての在りかたまで、本から得る多種多様な知見は、固くなった頭をストレッチする最上のエクササイズ。美しいアートブックは、インテリアとしてコーディネートをして楽しむ。

左/1990年代に出版された伝説の写真集が、版元の40周年を記念し、リサイズされて復刻。オリジナル同様、展示用のブックスタンドが付属しており、2020年に生誕100年を迎えた巨匠の名作とともに、作品の存在自体をも楽しめる。「Helmut Newton BABY SUMO Collector's Edition」¥198,000 (TASCHEN刊) 右上段左から/1870年から現在に至るまでのファッションの進化を、代表的なルックの写真とともにタイムラインで解説。ファッションが時代とともにたどってきた道筋を、この機会にじっくりと学びたい。「About Time: Fashion and Duration」¥10,318 (The Metropolitan Museum of Art刊) 人気芸術家の代表作を、大胆なクローズアップと解説でみせるシリーズ。言わずと知れた名作も、新たな発見が期待できるかも。「Leonardo in Detail」¥7,645 (Ludion Publishers刊) パウ

ハウスを代表するアーティストであるヨゼフ・アルバースと、その妻でありテキスタイルアーティストのアニの評伝&作品集。近代アート&デザインの先駆者のダイナミックで豊かな人生を知ることができる良書。「Anni and Josef Albers: Equal and Unequal」¥17,226 (Phaidon Press刊) 中段/天才芸術家であり、美食家でもあったモネのオリジナルレシピ60品を紹介。芸術家が愛した料理を、家で作ってみたいくなる一冊。「Monet's Palate Cookbook: The Artist & His Kitchen Garden at Giverny」¥4,147 (Gibbs Smith刊) 下段/知的で遊び心あふれるタイポグラフィーとシンボルマークのスクラップブック。アイデアとインスピレーションの源としても役立つそう。「A2Z+: Alphabets & Signs」¥5,291 (Laurence King Publishing刊) /銀座 蔦屋書店 [6F]



Think

想う

人と気軽に会うことが難しい昨今、改めて見直されているのが自筆の手紙。贈られたジュエリーを身につけながら、相手を想いつつ、日常の出来事をペンで一語一語したためる。アナログの愉しみを再発見できるいい機会にも。

右手/穏やかな日差しの中を舞う蝶を模したリングは、ゴールドとピンクトルマリンとのコントラストが贅沢に際立つ。リング「パサージュドパビヨンリング」(YG、ピンクトルマリン) ¥70,400、プレスレット「ティナチェーンプレスレット」(YG、サファイア、アメシスト、ガーネット) ¥51,700/アーカー [2F] 左手人差し指/幸運をもたらすといわれているヘビをモチーフにしたシリーズのリングは、指の表面で弧を描く独創的なデザイン。リング「ラッキー スネークリング」(YG、ダイヤモンド、ツァボライトガーネット) ¥330,000/イレーナ・マクリ [2F] 薬指/モチーフはイタリアの大聖堂。花咲く街の空に鳴り響く鐘の音に思いを馳せてみたい。リング「サンタマリアデルフィオーレ」(YG、WG、ダイヤモンド) ¥528,000/クアラントット [2F] ダイヤモンドの輝き

と、スウィートなピンクサファイアで可憐な花を模したブローチは、タイムレスで稀有な存在感を宿す。レターの上に置いたブローチ (PG、ダイヤモンド、ピンクサファイア) ¥660,000/メゾン・ド・ナディア [2F] 生命力に溢れるハチドリモチーフを、カラフルな貴石でデコレーション。リング (RG、YG、WG、ピンクサファイア、イエローサファイア、ブルーサファイア、グリーンガーネット、ブラックダイヤモンド、ロードライトガーネット) ¥836,000 (ミオハルタカ) /ビジュードエム ミオハルタカ [2F] 万年筆 (左) 「パーカー デュオフィールドクラシック インターナショナル アイボリー&ブラック GT」 ¥88,000 (右) 「S.T.デュボン エリゼ」 ¥96,800/銀座 蔦屋書店 [6F] ネイル「uka ベージュスタディ ツー 1/2」 (10ml) ¥2,420/ウカ [B1F]

Art and the Retail Complex

アートと商業施設の幸福な共存

2017年の開業以来、アートの館を標榜してきたGINZA SIXが、これから新たに見据えるべき姿勢とは？ここでは、それぞれの立場からアートの最前線に向き合い続ける三人に、その答えを探り語ってもらった。

アーティストのアプローチを引き受けていけるかが問われる

玉山 普段は物理的にも想像的にもスケールを拡張させるような空間をつくりたいと活動していますが、この2月23日までGINZA SIXに展示していた作品（※「新しい待ち合わせ」をコンセプトに館内8カ所＝8人のアーティストが手がけた「GINZA SIX ART CONTAINER」）は、コンテナのような閉じられた空間に対してアイデアを出すという意味では、現在の方向性とは少々異なる作品でした。一方で昨年、豊田市美術館の開館25周年記念コレクション展にゲストアーティストとして参加した際に、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて美術館が休館になって、その間「暗闇と化した美術館の中に展開されている、作品と言えるのか」と考える機会がありました。そうした経験から「場所や時代や環境といったものに関わりなく、作品は生き、存在してほしい」という願いを込めて制作したのが、GINZA SIXでの作品です。

住吉 GINZA SIXをはじめとする商業施設は明かりが消える営業時間外は休眠しますが、アートはディスプレイではないので価値は変わらないわけですね。

佐藤 商業施設に存在するアートは美術館やギャラリーのお客様とは違った多くの方々の目に触れるひとつのチャンスである半面、ホワイトキューブにはない空間的なノイズや制約もある。だからこそ、私が商業施設でアーティストとコラボレーションする場合は、いつもと違う環境を創造のきっかけのひとつとして捉えて、ここでしかできない新しいチャレンジをしてもらえるか。一方でお客様の視点としてどう作品と出会ったら好奇心が刺激されるのか。その両方を考えています。
玉山 僕の想いとしては、商業施設の中にあってもそこになじみすぎず、でも全く違うものをぶつけているとも違う作品になっていることで、何らかの投げかけになればいいなど。僕の作品が持っている質感や造形の要素が、人々の想像を掻き立てるものであって欲しい。
住吉 銀座でいえば、若手中堅のアーティストの登竜門的な発表の場としても知られるメゾンエルメスのウィンドウディスプレイも、商業主義とは一線を画す、アートに対する深い心意気を感じます。他にも昨年は日本橋三越本店が現代美術に特化したギャラリーをスタートさせましたが、今までのようにお客様が欲しい作品を世界から買い付けるのではなく、



Takuro Tamayama

左／「GINZA SIX ART CONTAINER」から、玉山さんの作品《Untitled (Not named yet)》。右／豊田市美術館の25周年記念コレクション展「VISION Part 1 光について / 光をともして」より《Eclipse Dance (Detail)》。



文脈のあるキュレーションでアートのある生活や姿勢までを提案していくような動きは、私たちメディアの側としても注目しています。

佐藤 商業施設にアートを取り入れるムーブメントは、このところさらに広がっていると感じます。だからこそ、それぞれの商業施設がどんなアートをどう取り入れるのかを自覚することがとても大切だと思います。アーティストの方々が本来の活動領域から飛び出し、その目で開拓してアプローチをしていくところに刺激的なコラボレーションがあるわけで、彼らへの期待がある一方で、商業施設側はその発想を引き受けていけるかどうか問われます。ちなみに両者の不幸な関係の一例と言われるのが、ニューヨークの五番街にあったボンウィット・テラーという高級百貨店が、1939年にサルヴァドール・ダリにショーウィンドウのデザインを依頼した際のできごとです。ダリが倉庫から持ち出して飾った汚いマネキンを、顧客からの苦情を恐れた経営陣が無断で撤去した。これに激怒したダリがショーウィンドウに入り込んで作品を壊し、その際ガラスも割ってしまい、警察沙汰になり弁償する羽目になったというエピソードです。

玉山 僕のような世代の若い作家は、必ずしも商業施設と関わるのがプラスに働かない可能性もあるんです。見られ方が限定されてしまったり、美術館の学芸員のような方にさえ、アートの本筋じゃないように捉えられてしまうことがあるように感じます。その背景には現段階での自分の活動歴や発信力、ネット上で見る範囲の情報の方が肥大化してしまって、それを否定しきれない自分もいるからなんですけど、だからこそ、ダリのマネキンの話なども教訓にした商業施設側との相互理解はかなり重要だと思います。今回のGINZA SIXでの作品も、館のブランディングとは切り離して見てもらうことが大前提ではありました。
住吉 今回のアート・コンテナ企画でも、玉山さん以外に複数のアーティストの作品が展示されていて、他にも館の目玉的な吹き抜けのインスタレーションも含め、GINZA SIXには多くのアートが存在しますよね。ただ、店舗の装飾に絡れてしまうような作品と並列されると、玉山さんの作品ですら埋没してしまうことがある。そこは作家の手腕もあるけれど、GINZA SIXはキュレーターの作品のコンテキストを読む広義な知性やビジュアルセンスが問われる場所だと思います。



Chie Sumiyoshi

左／住吉さんが綴ったGINZA SIXアート考は、館のウェブサイト連載「ぶらエディタース」のVol. 66でも掲載中。右／日本の芸術分野の批評文化を育むべくレビューを掲載するメディア「Real Tokyo」ではディレクターも担当。



草間彌生、ダニエル・ビュレン、塩田千春、吉岡徳仁が作品を展示してきたGINZA SIXの吹き抜けを背に。左から住吉さん、玉山さん、佐藤さん。

住吉智恵 アートプロデューサー・ライター

1990年代よりアートジャーナリストとして活動。2003～15年、オルタナティブスペースTRAUMARIS主宰を経て、現在は各所で現代美術とパフォーマンスアーツの企画なども手がける。

玉山拓郎 現代美術家

1990年岐阜県生まれ。2015年東京藝術大学大学院修了。色彩の空間に家具や日用品のファウンド・オブジェクトや映像作品を配置。絵画の中のような構成的かつ夢想的な作風で知られる。

佐藤寧子 アートディレクター

pranks inc.代表。ユーモアとストーリーの両軸に秀でた独自性のあるディスプレイ、ウィンドウディスプレイ、イベントスペースなどのデザインおよびアートディレクションを手がける。

館に寄り添う作品ばかりをアーティストに求めない

佐藤 商業施設側のアートに対する理解も進化し、アートの側からの抵抗感は、以前より少なくなった印象を持っていたのですが、そうでもないんですね。
住吉 今のアーティストはとにかく情報に晒されているので、いかに自分の作品価値を消耗させないようにするか、冷静かつ客観的に、ひとつの展示が自分にと

ってプラスになるかどうかを見極める判断力のある人も多いでしょう。

玉山 戦略は本当に大事で、少しでも間違ってしまうと軌道修正するのに時間がかかる。僕もそうですけど、他のアーティストたちもいろいろと慎重にならざるを得ない部分がありますね。
佐藤 GINZA SIXとして商業活動とアーティストの双方が幸福と思える関係の上に、従来の商業施設に留まらない体験価値を築いていく。しかも他の商業施設

でも成立できてしまうものだったり、単に海外のモデルケースをなぞったりするのでなく、GINZA SIXの空間や場だから成立するようなアートの受け皿を創っていく意志が必要だと感じますね。
玉山 現段階では商業施設に展示された自分の作品がアートという言葉方をすることに、馴染めないアーティストもいると思います。だからこそ、商業施設とアートは混ざり合うんじゃないかと、どちらもちゃんと存在として並列されているかどうか重要な気がしますね。

住吉 GINZA SIXがあるのは銀座だってことも大きい。新型コロナウイルスで国内外の観光客が消えて、ここから銀座が活気を取り戻していくときに、東京の復権や街としての品格も牽引して行ってほしいんです。そういう意味で、アートもひと味違う特別な作品に出会うことができるんじゃないかと思います。
玉山 僕なんかの場合の銀座との接点は、メゾンエルメスの上階にあるギャラリーや、資生堂ギャラリーの企画展を観に来るか…くらいかもしれないですね。
佐藤 銀座の街はギャラリーやショーウィンドウ、ショールームもあり、歩いているだけで様々な情報に分け隔てなく触れることができる。GINZA SIXも圧倒



Yasuko Sato

左／2018年のホリデーシーズンにGINZA SIXの吹き抜けに登場したニコラ・ピュフによるインスタレーション。佐藤さんのアートディレクションによる。右／日本空間デザイン賞も受賞したGINZA SIX B2Fのウィンドウアートより。



Metamorphosis Garden

名和晃平が示す風通しのいい未来像

2021年春より、日本を代表する彫刻家・名和晃平がGINZA SIXの中央吹き抜けのアートインスタレーションを手がける。揺れ動く世界に新たな価値を問う本作の構想について話を聞くため、京都のスタジオを訪ねた。



Kohei Nawa 名和晃平

1975年大阪府生まれ。彫刻家。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程修了。「名和晃平—シンセシス」(東京都現代美術館、2011)ほか、国内外の展覧会や建築プロジェクトなど活動は多岐にわたる。2009年に京都市に「Sandwiche」創設。現在京都と東京を拠点に活躍する。

上/左 宇治川沿いのサンドイッチ工場跡をリノベーションした、創作のためのプラットフォームSandwicheにて。スタジオやオフィス、工房、レジデンスを備え、多様な分野のクリエイターが集う。

ビジョナリーな視点を未来に提示する芸術の力

2000年代の初頭、のちに彼のアイコンとなる透明な球体に覆われた剥製の鹿の作品が注目を浴び、アートシーンに鮮烈なデビューを飾った彫刻家・名和晃平。その旺盛な創作活動は国内外で着実に評価を高めてきた。Pixel (画素) とCell (細胞・器) を融合させた独自のコンセプト「PixCell (ピクセル)」を基軸に、ガラスビーズ、発泡ポリウレタン、シリコンオイルといった現代の多様なマテリアルが持つ特性を研究し、先鋭的なテクノロジーを駆使した彫刻作品や空間表現を発表し続ける。人間本来の感覚にダイレクトに接続する、物質の「表皮」というインターフェイスに着目した作品世界は、彫刻の領域を柔軟に押し広げ、観る人の知覚を覚醒させるような体験を次々に展開してきた。

名和が活動の拠点とする京都市伏見区のスタジオ「Sandwiche」には、彼を中心に建築家、デザイナー、エンジニア、コレオグラファー、ダンサーなどさまざまな分野のクリエイターが集い、国内外のアーティストたちが頻りに滞在する。若い制作者たちが日々専門性を磨きながら、互いに刺激しあう、風通しのいいプラットフォームを培ってきたこともまた名和独自の有機的な取り組みのひとつだ。この春、GINZA SIXの中央吹き抜けに、名和晃平が手がける大規模なインスタレーションが出現する。

「Metamorphosis Garden」と名付けられたこの作品は、かねてから名和が関心を寄せてきた「生物と無生物」というテーマのもと、生命と物質、さらにそのあわいの未分化なものまでが共存する混沌とした世界を描きだすものとなる。訪れた人々は、いくつもの浮島が泡のように点在し、さまざまな形の雫が立ち上がる光景を見ながら上階へと昇っていく。やがて水面を眺望すると、そこには鳥々に囲まれて凛と立つ神獣の鹿の姿が現れる。「宇宙に存在するあらゆる物質はパーティクル(粒子)で構成されるといわれます。この作品では、無機質な質感のアルミナの粒で覆われた鳥は無生物を表し、みずみずしい透明な質感のマイクロビーズの粒で覆われた雫は生命の拠り所である水を象徴しています。生物と無生物を対比させながらも、それらが完全に分かれるのではなく、曖昧に入り混じった世界を表現したかった」と名和は語る。

無数の粒々で生成されたこの「変容の庭」にはもうひとつの平行ワールド

が存在する。こちらも情報世界のパーティクルの集合体がAR(拡張現実)のイメージとなって現れ、目の前のリアルな空間と重なりあうのだ。AR上の仮想空間では、名和の盟友であるベルギー出身の振付家・ダンサー、ダミアン・ジャレが振付を手がけるパフォーマンスが連動することとなる。「現実とヴァーチャルの空間が平行に存在している状態にはこれまでもずっと関心を持っていました。ここではあらゆる生物相が互いに関係し合いながら、その豊かな生態系を維持し、連綿と生を受け継いできたことをパフォーマンスでも表現したい」と語る。

このように多様な生物相が共生する世界観を空間的に表現する試みは、瀬戸内海の犬島に恒久設置された作品《Biota (Fauna/Flora)》(2013年)ですでに雛形ができあがっていたという。妹島和世設計の建物の両翼にある小さなふたつの坪庭では、飛び石のような島々から水滴が立ち昇り、種子から芽吹いた植物が伸び上がろうとする。その様子には愛らしくも健気で、名和の代表作の中ではちょっと異質な、ハートフルでユーモラスな世界が展開されている。今回の吹き抜けのプロジェクトでも、名和は本作を「単なるスペクタクルなものにはしたくなかった」と強調する。

「世界的に社会の状況が大きく変化しています。アートとビジネスの関係にも、本気の共創が問われる時代が来ています。企業や商業施設のインスタレーションのあり方も新たなフェーズを迎えているのではないのでしょうか。アーティストに求められる姿勢とはビジョナリー(先見的)であること。表現者ならではの直観や感覚が、観る人々のものの見方や感じ方を変えるきっかけになることがあります。そういった可能性をもつ作品をつくりたいと常に考えています。自分自身のフィルターを通してこの世界を解釈し直すことで、これからの時代の新しい価値のあり方を問いかけたい」

波乱の幕開けとなった2021年、新型コロナウイルスの災禍や地球環境の変化、大国のリーダー交代など世界は大いなる価値変換期を迎え揺れ動いている。

名和晃平が彼のアートを通して提示するビジョンは、どのように訪れる人々の価値観を揺さぶり、インスピレーションを与え、未来へのシフトチェンジを促すのか。いまこそ芸術の持つ底力に大いに期待したい時代が来ている。



すべての生命と物質が豊かに共生する庭園

吹き抜けに現れるインスタレーション「Metamorphosis Garden」(変容の庭)のイメージ。現実の物質空間とAR空間を平行に存在させる作品はかねてより検証と実験を重ねてきた。ARのプログラムでは、鳥と雫のあいだで踊るダンサーの動きなど、さまざまな生命の営みをデバイスを通じたビジュアルコンテンツとして楽しむことができる。展示は4月12日(月)からスタート予定。

※最終的な確定イメージとは異なる可能性があります

Major Works

Biota (Fauna/Flora) _ 2013

瀬戸内海の犬島に恒久設置されたSANAA設計の建造物の内部にインストールされた作品群。小さなふたつの坪庭には今回の作品の原型となった雫や植物の彫刻が展示されている。

Collection of Benesse Holdings, Inc.
photo: Nobutada OMOTE | Sandwiche



VESSEL _ 2016

名和が舞台美術、ダミアン・ジャレが振付を手がけ、森山未来、エミリオス・アラボグレルほか精鋭のダンサーたちが出演したパフォーマンス作品。現在も世界各地の劇場で再演が続く。

©Damien JALLET | Kohei NAWA
photo: Yoshikazu INOUE

White Deer (Oshika) _ 2017

音楽プロデューサーの小林武史が発起した「Reborn-Art Festival」の一環として、石巻の牡鹿半島に展示された彫刻。東日本大震災復興のシンボルとして恒久設置となった。

©Reborn-Art Festival 2017
photo: Kieko Watanabe(Pontic Design Office)



Throne _ 2018

パリのルーブル美術館ピラミッドに特別展示された、浮遊する空位の玉座。加速度的に進化する人工知能が現行権力に置き換わる未来社会への予見から表現された、寓意的な作品だ。

©Pyramide du Louvre, arch. I. M. Pei, musée du Louvre
photo: Nobutada OMOTE | Sandwiche
Remerciements: Musée du Louvre

Moment _ 2020

粘度調整した絵具が入ったタンクに一定の圧力をかけ、ノズルから出る絵具によって描くドローイング。タンクや支持体を移動させることで絵具とキャンバスの間の相対的な運動の軌跡を刻む。



GINZA SIX Info

Shop News



BIZOUX
ビズー

5月25日(火)まで
Limited - Run Shop【4F】

世界中から集めた約100種類の宝石、女性デザイナーのクリエイション、甲府の職人の高度な技術—その三位一体で生み出すジュエリーブランド。多彩な宝石を組み合わせたものや、世界に1点のジュエリーを作る「セミオーダー」、熟練の職人による手彫りのインシャルジュエリーなどを紹介します。



JALAN SRIWIJAYA
ジャラン スリウィジャ

3月31日(水)まで
POP UP【4F】

2003年に誕生したインドネシア製の本格レザーシューズブランド。ハンドソーン・ウェルテッド製法で作られ、手縫いでなくては不可能な「すくい縫い」が最大の特徴で、熟練の職人が丁寧に仕上げられています。既存の有名ブランドに引けを取らない品質と、手に取りやすい価格帯で注目を集めています。



Atlantic STARS
アトランティックスターズ

3月31日(水)まで
POP UP【3F】

1980年代を象徴するカラーやフォルムが特徴の伊のファッションスニーカーブランド。イタリアブランドならではの、熟練の職人が全て手作業で手掛けるクオリティーが支持されています。店頭には新作の春夏モデルや日本限定モデルが並び、銀座の街に合う「ニューラグジュアリー」を提案します。



食べるバラの専門店・玖島ローズ
KUSHIMAROSE

3月2日(火)～4月4日(日)まで
【B2F】

国産の食用バラを贅沢に使用したパサスイーツの専門店が初登場。契約農家から直送された摘みたての新鮮なバラを加工し、農薬不検出、化学肥料を一切使用していないこだわりのパサスイーツが店頭に並びます。試行錯誤を重ね、バラ本来の香りを大切にしたいスイーツの数々をお楽しみください。



「祝迫芳郎」個展

3月11日(木)～17日(水)
Artglorieux GALLERY OF TOKYO【5F】

金属や樹脂、箔などを使い、動物などの特徴や性格をモチーフにして物語や例え話をするように立体作品を制作している祝迫氏。本展では、犬や子ブタ、うさぎやねずみといった小動物たちが自由を求めたり、野生の中で強く生きていこうとする姿をオリジナリティー溢れる世界観で表現しています。



Oliver Beer Solo Exhibition
オリバー・ビア 個展

3月16日(火)まで
THE CLUB【6F】

ニューヨークのメトロポリタン美術館やパリのボンビッドゥー・センターなど、世界有数の美術館で作品が展示され、ロンドンを拠点に活躍するオリバー・ビアの新作展示を開催。空間や物体、音響の繋がりを探求するビアが、本展ではバイオリンなどの楽器を、詩的な平面作品へと進化させます。

App



持ち歩けば、ショッピングが変わる

多様な機能が詰まったGINZA SIXアプリ。GINZA SIXでのショッピング体験をさらに充実させる機能が満載です。登録費・年会費無料、ぜひダウンロード・登録して、GINZA SIXでのショッピングをお楽しみください。

- お買い物時にアプリ提示で110円(税込)につき1ポイント付与
- GINZA SIXの最新ニュースや会員限定情報を配信



- 館内のショップやサービスはスマートにご案内
- レストラン予約



登録費・年会費無料 アプリのダウンロードは右のQRコードから
※iPhoneはiOS9以上、AndroidはAndroid4.1以上が対象

Parking

GINZA SIXへのアクセスは
お車のご利用が便利です

- 1 早朝から深夜まで営業 6:00～26:00
- 2 銀座エリア最大級 445台
- 3 店舗ご利用のお買い上げ金額によるサービス
利用時間300円/30分

3,000円以上のお買い上げ ⇒ 1時間無料
10,000円以上のお買い上げ ⇒ 2時間無料
30,000円以上のお買い上げ ⇒ 4時間無料

◎GINZA SIX各店舗にて加算します。各店舗でのお支払い時に駐車券をご提示ください。◎お買い上げ金額は税込・合算可です。◎当日のお買い物のみ対象となります。◎一部対象外の店舗がございます。

Our Team

Editor's Letter

その朝は車を走らせていた。去年の11月のことである。冬になる直前の街の匂いを嗅いでおこうと、窓を下ろして心の風通しもよくしてから、職業病でもあるのだが、今どきの世間の興味にもタッチするべくラジオのザッピングを始めた。

聞髪を入れず耳に飛び込んできたのは、リアルタイムでは知らないけれど、聞き覚えがある昭和の名曲。たしか女性の歌だったはずなのに、今の歌詞曲にはない剥き出しの恋の歌詞を、男性が圧倒的な情緒でカバーしていて、その声の瑞々しさと、何より嬉々と歌い上げる歌い手のたましいのようなものに、放心した。

なんにせよ忘れていたような気がする大切なもの、よろこびが、その声にはあふれ出ていた。

翻って最新号の『GINZA SIX magazine Spring 2021』も、音楽と同じように心を磨いてくれるファッション、そしてGINZA SIXが標榜するアートを主語に、もう一度、そこにある“JOY”を愛でられたらと、まともさせていただいた。

紙でできた花を文字とした表紙の“JOY”は、昨年コロナ禍のGINZA SIXで希望という名のインスタレーション“into hope”を発表したフラワークリエイター篠崎恵美さんがアーティストとして取り組むプロジェクト「PAPER EDEN」によるもの。聞けば、手芸がよろこびである彼女の母がよく作っていた紙の花、手から生まれた何気ないものあたかみを、その造形をグラフィカルに捉え直した作品を通して、世の中が今よりシンプルだった時代の記憶として継承していきたいのだという。今回はあえてその自由な発想に委ねてポピー、ステファノシス、ダリア、マダーを制作いただいたが、どの花々も虫や風に壊されて命をつなぐ雌蕊と雄蕊までが緻密に表現されていて、他者とのディスタンスを余儀なくされた世界で普遍的な自然の営みに立ち戻らせてくれるアートでもある。

なお、冒頭で触れさせていただいた歌手はというと、ご存じエレファントカシマシのフロントマンで、ソロとしての傑作カバーアルバム「ROMANCE」で、好きと己を信じ続ける旅路を示した宮本浩次さん。ちなみに篠崎さんは宮本さんが昨年リリースした大きな愛を歌ったシングル「P.S. I love you」のジャケットのビジュアルにも参画されていて、稀代のミュージシャンの手に束ねられたカラジェームの花言葉がよろこびであることは、偶然の余談である。

GINZA SIX magazine 編集長
岡田 有加

Access

電車でお越しのお客様

東京メトロ/銀座線・丸ノ内線・日比谷線「銀座駅」A3出口より徒歩2分
*東京メトロ 銀座駅、東銀座駅、都営地下鉄 東銀座駅よりB2Fへは、直結の地下連絡通路をご利用いただけます。

GINZA SIX magazine \ Spring 2021 Vol.6

Publisher: GINZA SIX Retail Management Co., Ltd.
Editor in Chief: Yuka Okada (81 Inc.)
Art Director & Title Design: Soichiro Nakatsu (So, Design & Co.)
Designer: Yuki Nakano

Cover & Back Cover
Paper Flower Art: Megumi Shinozaki (edenworks)
Photos: Satoshi Yamaguchi
Edit: Yuka Okada (81)
p.00-01 Edit & Text: Yuka Okada (81)
p.02-05 Collage Art: Nao / petitoto Photos (still life in artwork): Asa Sato
Edit & Text: Hiroko Koizumi
p.06-07 Photos: Takehiro Uochi (TENT) Edit & Text: Shiho Amano
p.08-09 Photos: Takehiro Uochi (TENT) Edit & Text: Jun Namekata (The VOICE)
p.10-15 Photos: Asa Sato Illustration: Shinji Abe (p.15)
Editorial Support: Yuuki Michida (Marchingband Company)
Edit & Text: Kaijiro Masuda
p.16-21 Photos: Mitsuo Okamoto Styling: Ayaka Endo
Hair: Yusuke Morioka (eight peace)
Makeup: Nobuko Maekawa (perle management)
Models: Kovich (tokyo rebels), Taro Imai Edit & Text: Atsuko Kobayashi
p.22-25 Photos: Ooki Jingu (p.22-23), Shin Ebisu (p.24-25)
Edit & Text: Yoshinao Yamada
p.26-31 Photos: Masanori Akao (white STOUT) Styling: Tomoko Iijima
Hair & Makeup: Keita Iijima (mod's hair) Nails: Rie Nakajima (uka)
Model: Masha Nazarova (West Management)
Edit & Text: Satoko Hatakeyama
p.32-33 Photos: Yuichi Sugita Edit & Text: Yuka Okada (81)
p.34-35 Photos: Makoto Ito Text: Chie Sumiyoshi Edit: Yuka Okada (81)

Clerk: Kanae Yamada

English copy by RendezVous Co., Ltd.
Printed by Taiyo Printing Co., Ltd.

Information

所在地 : 東京都中央区銀座6-10-1
営業時間 : ショップ・カフェ_10:30～20:30
レストラン_11:00～23:00 ※店舗、施設により異なります。
お問い合わせ : 03-6891-3390
(GINZA SIX総合インフォメーション 受付時間10:30～20:30)
※急遽、営業時間に変更になる場合がございます。
※最新の営業時間は公式WEBサイトまたは総合インフォメーションにてご確認ください。

詳しくはGINZA SIX公式WEBサイトをご覧ください。
<https://ginza6.tokyo>



*掲載商品の価格は全て税込となります。*掲載情報は2021年2月10日時点でのものとなります。



GINZA SIX の Instagram で
日々にもよろこびを

📷 [ginzasix_official](#)
[#ginzasix](#)

<https://ginza6.tokyo>